

### 〈GHQ(占領軍総司令部)による露店撤廃令〉

昭和二十四年八月四日、GHQは「露店撤廃令」を施行しました。戦後の混乱期を支えてきた露店でしたが、禁制品を扱う店や公道を使う業者が増加。法による整備が必要との判断から、半ば強制的な撤廃令となったのです。露店撤廃令が出る前年には、国鉄上野駅前、黒門町や稲荷町等で、既に露店バラックの撤去が始まっていました。

この露店撤廃令は、東京都内九十四ヶ所の露店組合と、その組合員約六万人に及ぶものでした。当時の電気露店商も、その影響を受ける事になります。

### マッカーサー命令による露店撤廃

(昭和二十四年〜二十六年)

大空襲で焼け野原となった東京ですが、神田、小川町、須田町、淡路町は一部残り、その付近で露店商が衣料・雑貨などを並べ、特に軍放出の電気関係の部品は良く売れていました。ですから露店商同士の連帯感は強く、それが力となって仲間となって政治交渉などを重ねた結果、神田から秋葉原駅周辺へ、つまりラジオパワリーの町が現在の秋葉原に出現することが出来たのです。

いわば皆様の出発点が誕生した、これがいきさつです。



ラジオデパート竣工

### 秋葉原中央通り電気パーツの町

(昭和二十五年頃)

駅前の青果市場で賑わっていたこの町も、この頃には秋葉原から末広町にかけて、軍放出品、電気関係部品の流通市場となり、ラジオの組立品もよく売れ出しました。

戦後の放出部品を、研究材料として買いに来た人々の中には、後に大会社を営む方々も数多くいらしたと思います。

当時の中央通りには、マルト食堂、うすい竹屋、ラーメン松楽などが営業しており、夜になると駅前にかん箱を並べた露店の酒屋が、多くの客で賑わっていたことが思い出されます。



外堀通りの都電 (後方昌平橋)